

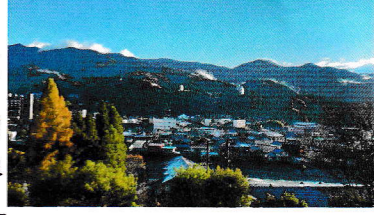
滑 稽 新 聞 社
〒444-0103 愛知県額田郡幸田町
大字大草字称宜屋敷(ネギヤ)63-1
勤く感じる、感じて動く、感動を伝之語
第342号 創刊1990年7月28日
Email; kokkei1949@yahoo.co.jp

滑稽新聞

一日として同じ
だと思おうと意気は
なへんです。
必ず何か新発見
かたいつものがある
し、ふいふいともね
はんとに及馬く
ばりのりです。
「こぼの果実」
まじかみろか

ルビー婚を迎えた

結婚する前、ドライブに行
けは必ずカーステレオから流
れていたのが奇麗のルビ
ーの指環。スヒット曲だった。その曲が失恋の歌であ
ることと願わず、ただ流れるメロディーの心地良さと
奇麗のメロウな歌声に酔った。ただただかき知れない。
あれから40年の歳月を経た。毎年結婚記念日
11月22日を迎える度に、「いい夫婦」になれたと感じ



「外国人が来ないうらに旅行しちゃうの」と言う妻の言葉に従って泊まった下呂。ホタルから街を眺めると、深まり行く秋は、街道の木々、紅葉と道の駅に並んだ秋野菜の数々が十分感じさせてくれた。



この日と満40年@新中モビリティ

落ち着いて観光かえ、ゆくりと見ることができると、小テイルからは「祝結婚記念日」のケーキと、記念写真のプレゼントというサプライズも。合掌村はまさに「お慶様が40年」の感に、新の気持で「合掌」に、下呂の場所だ。



下呂合掌村の秋の美観

父のおにぎり

四十年前の十一月二十日早朝、美容師であるが実家に来てくれて、頭を文金高島田にし、着おと着付け、花嫁姿にしてくまました。花嫁姿が整った時、父が部屋に入ってきた。手には、おにぎりそのまたお皿が。「花嫁はごちそうを前にしても、食べられぬいから、今のうちにおにぎりを食べておくといいいよ」と、おにぎりを手に持たせてくれました。父がつくってくれたおにぎりは、胸が、はいで、少しかのどを通りませんでした。

温暖化が進んぶといふ言葉、この時期になると、食欲するものがあまる。干し柿と新酒。柿農家の幸夫君から大量の渋柿を貰った。「興味ない」と言う妻を種目に、毎晩皮むき、柿系結ひ、軒吊るしをやった。約3週間後、こまた、製品と合長べてみたら、物凄く日くさうまい。妻もその美味に驚き、「おいしくい」と連発。ヤ、たネー。

霜月はこれがなくら

「孝の司しはりたこは初出せ荷の日を何層も蔵元に聞いて月朧にとうくゲット。ウー、この味、何とも言えない」と天婦。ご晩酌を堪能。よ女備なのも嬉しい。



中津川から見た大モダン



